



6月 ちょっと一言

主任司祭 鵜飼好一

令和元年6月。今年も半年が過ぎようとしています。梅雨も近づいてきたのではないのでしょうか。しかし、このところすでに真夏のような暑い日が続き、熱中症への警戒も呼びかけられています。教会はというと、復活節も終わりに近づき、6月の初めは主のご昇天、聖霊降臨、三位一体、キリストの聖体、キリストの聖心など大きな祝日が続きます。

小田原教会にとっては、何といっても6月16日、三位一体の祝日に梅村司教様をお迎えして、創立140周年の記念ミサをお捧げし、みんなでお祝いすることが大きな出来事となるでしょう。

今回の記念は、これまでの沢山のお恵みを感謝し、特にこれから将来にむかって小田原教会がどのような共同体に成長していくことが神のみ旨であるかを、みんなで考え、将来に向けて具体的な準備を始める第一歩としたいと考えています。

何事も現状を踏まえた上で始めなければなりません。社会全体も、教会も変革を余儀なくされるような時代です。しかし、将来を悲観することなく、福音宣教の務めを果たすために、よりよい道を探り、対策を考えたいと思います。

さて、5月の聖母月に続いて、6月は聖心の月と呼ばれています。主の十字架はわたしたちの救いのしるしですが、主の愛を知ることこそわたしたちに真の平和と救いをもたらします。主の聖心は愛のシンボルです。いろいろな愛の形がありますが、「友のためにいのちを与えるよりも大きな愛はない」と言われたイエスさまは、十字架の上で忍ばれた苦しみを愛のゆえに捧げられました。6月は特に主の愛について黙想し、理解を深めることができるように恵みを祈りましょう。

5月の神奈川第6地区全体会でも取り上げられましたが、三位一体の神への信仰はわたしたちを愛における交わりのうちに一つになるように招いています。教会においても社会的問題である高齢化、少子化の問題をはじめ、建物の維持管理の問題など様々な問題があります。福音宣教を使命とする教会がこの小田原の地にあって、具体的な問題を含め、生き生きとした信仰を生きる教会として神の愛を証していけますように。神が共にいることを実感できるような交わりの場を持つことができますように願います。

